mizuki

みずき
第12号

大阪医科大学附属病院　病院医療相談部　医療連携室ニュース●2009年1月発行

contents

●年頭のごあいさつ……P.1
●診療科の紹介「泌尿器科」……P.2
●診療科の紹介「腎臓内科」……P.3
●ボランティア室より……P.4
●医療連携室から……P.4
●編集後記……P.4

謹賀新年
二〇〇九

平成21年年頭のごあいさつ

病院医療相談部 部長 木下 光雄

新年明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、すがすがしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、病院医療相談部には相談課、医療連携室とがん相談支援センターの3部署がありますが、各部署が協力してケースワークの仕事、地域の医療機関の皆さまへのサービスやがん療養に関するご相談などに対応させていただいております。皆さまのあたたかいご指導ご鞭撻のお蔭をもちまして、すこしずつではありますが、職員一同の励みになるようなあたたかい評価が頂けるようになってまいりました。また、昨年春には当部署が中心になり病院ボランティア支援委員会を立ち上げることができ、11月から病院ボランティア活動を開始しております。これもひとえに、ボランティアの皆さま方ならびにご協力いただきました職員の皆さま方のお蔭であり、関係各位に心より御礼申し上げます。

医療をとりまく状況には相変わらず厳しいものがありますが、このような時においてこそ、患者さまと医療者とのコミュニケーションや医療者同士の密な連携は、よりよい医療を提供する上において欠かせないものであろうと思っています。私ども病院医療相談部一同は、本年も地域の皆さま方のお役に立てますよう一生懸命努めてまいる所存でございますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

診療科の紹介●泌尿器科

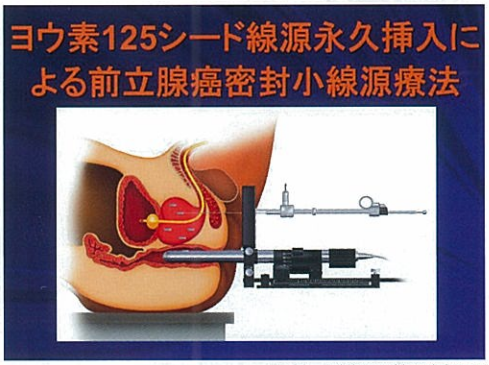
泌尿器科 科長
勝岡 洋治

前立腺がんに対してフルラインナップで対応しています

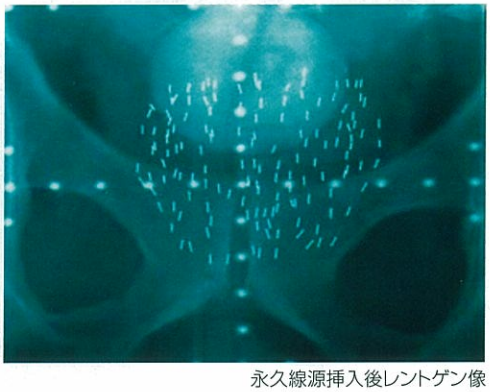
泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害、尿失禁、尿路結石、感染症、男性不妊、性機能障害、腎不全、腎移植、など泌尿器科疾患全般にわたり診療を行っています。
そして、それぞれの分野で専門外来を設けています。
近年、内視鏡手術の目覚しい進歩によって低侵襲性治療が可能となり、入院期間の短縮化が図られています。
また、結石破砕術や前立腺針生検などは特別な理由がない限り日帰りで行っています。

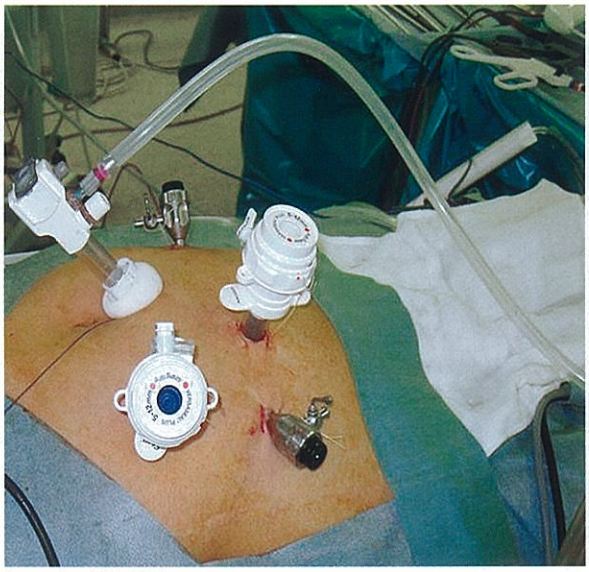
今日、高齢化が進む中で特徴的なことは加齢が主因と思われる疾患が増えています。泌尿器科領域では、前立腺肥大症、前立腺がん、過活動膀胱、尿失禁、性機能障害、などが挙げられます。いずれも有効性と安全性の高い薬剤が開発され、治療効果は良好です。

この中で、私達が最も力を入れているのが、前立腺がんの診断と治療です。早期診断には信頼性の高い前立腺特異抗原（PSA）の測定が行われます。高槻市では50歳以上の男性を対象に前立腺がん検診が平成20年5月より公的事業として施行されています。PSA値が異常を示した場合には、確定診断目的で前立腺針生検を行いますが、がん発見率はグレーゾーン（4～10）で約30%、10の値を超えると60%以上に上昇します。治療法は、手術療法、放射線療法、内分泌療法に大別されますが、手術法では内視鏡下小切開手術や腹腔鏡下手術が開発されています（当院ではいずれも施設認可取得済みで保険適用可）。これらの術式は従来の開放手術に比較して、手術創の小さいこと、術中出血量が少ない、入院期間が短い、など多くの面で優れています。放射線療法においても外照射に比べより効果を高めると同時に、合併症を少なくする新しい方法として、一時刺入高線量率組織内照射法（HDR）、永久刺入密封小線源療法（ブラキセラピー）、強度変調放射療法（IMRT）などが登場していますが、すでに本院では全て稼動しています。関連施設では高密度焦点式超音波療法（HIFU）が導入されており、前立腺がん治療においてフルラインナップを備えた全国唯一の診療科です。進行度、病理学的所見（悪性度）、患者さまの年齢や全身状態などに基づき、治療法の個別化とQOLの改善を目指しています。

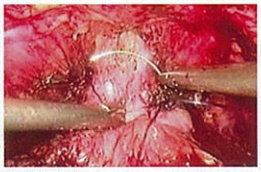


エコーガイド下線源挿入図


永久線源挿入後レントゲン像


トロッカー挿入位置

手術風景


静脈叢結紮

電気メス装置（Valley lab）

永久刺入密封小線源室

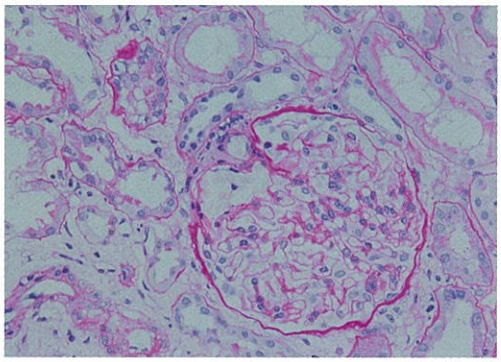
診療科の紹介●腎臓内科

腎臓を守ることは心臓や脳血管を守ることにもなります

健診で蛋白尿や血尿を指摘されたら放っておいてはいけません。
慢性腎臓病（CKD）は重大な病気ですが、進行に応じて適切な治療が可能です。

腎臓内科 科長
井上 徹

現在日本には、中等度以上腎機能が低下（糸球体濾過量が60ml/min未満）している人が約1,000万人（成人人口の10%）いると推測されています。このような人が予備群となって毎年、約3万人が新たに透析導入となっています。腎機能の低下、または蛋白尿が3ヶ月以上続いていると慢性腎臓病(CKD)と定義されます。腎機能が中等度以上悪くなると体内の水・電解質異常、尿毒素の蓄積、貧血、カルシウム・リン代謝異常などがおこります。その結果、心臓や血管に負担がかかり心血管病（狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、心不全、動脈硬化等）を発症しやすくなります。どの時点であっても腎臓を守る治療を行うことは透析に至る期間を延ばすばかりでなく、心臓や脳血管を守るという重要な意味を持ちます。早い時期の診断、治療開始が大切です。



腎生検組織

われわれは以下のことを行っています。

1）腎臓病の原因を検索します。

腎機能が低下する原因として腎臓自体の問題（腎炎など）、全身性疾患（膠原病、糖尿病など）による腎障害、腎実質以外の異常（尿路結石などによる水腎症、腎血管の狭窄など）があります。血液検査、尿検査、画像検査では診断できない場合、腎生検を年間約60例行い、予後の推定や治療方針の決定に役立てています。

2）腎障害の原因を治療します。

活動性の腎炎では入院の上、副腎皮質ステロイド薬などを用いて治療を行います。適切な時期に治療を開始することで腎機能を維持したまま病態の改善を得ることができます。最近、若年者に多いIgA腎症に対して、耳鼻咽喉科との連携により扁桃摘出術とステロイドパルス療法を組み合わせることで良い効果をあげています。腎生検で見つかったファブリー病に対して酵素補充療法を行っています。全身性疾患によって生じる腎障害に対しては膠原病内科や糖尿病内科と連携して治療をすすめています。御紹介いただいた医療施設と連携し、治療効果を定期的にチェックしながら診療をすすめる場合もあります。

3）腎機能低下症例に対し、腎臓のする仕事をサポートします。

高度腎機能低下例に対して定期的に検査を行い、電解質異常、貧血、カルシウム・リン代謝異常を投薬、注射により改善し、腎のみならず心血管保護をはかっています。

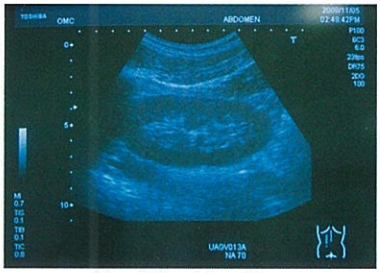
4）より高度に腎機能が低下した場合、透析導入を行います。

血液透析は血液浄化センターで行われますが、同センターは腎臓内科医師が運営にあたっています。適切な時期に透析を導入することで予後を改善することができます。

5）慢性腎臓病に対する患者指導を行います。

生活習慣の改善や食事療法は慢性腎臓病にとってたいへん重要です。栄養部や血液浄化センタースタッフの協力のもとにこれらを行っています。

慢性腎臓病は早い時期の診断、治療開始が大切です。症状がなくても蛋白尿など腎臓の異常が続く場合は一度、腎臓内科にご相談下さい。



腎エコー

腎生検風景

ボランティア室より

地域に開かれた病院を目指す当院では、昨年11月4日から、病院ボランティアさんにお手伝いいただいています。16歳以上の一般の方が無償で活動しています。赤白チェックのエプロンをつけ笑顔で挨拶されている方が病院ボランティアの方たちで、年齢層は30歳代から70歳代と大変幅広いボランティアグループです。

活動場所は今のところ正面玄関で、初診の患者さまへの案内などをお願いしています。今後は図書ボランティアや院内行事のお手伝いのボランティアも募集していく予定です。夏休みなどには、学生さんの病院ボランティア体験も考えています。

また、病院ボランティアさんには、実際に病院の中で活動してみて感じたことなどの意見を出していただき、当院の改善に努めるようにしています。

医療連携室から

●平成20年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告

去る平成20年11月20日、連携病院より74名、院内より38名の先生方にお集まりいただき、今回は交通の便も良いホテルグランヴィア大阪にて開催いたしました。

特別講演は井上法律事務所の井上清成先生をお招きして、「医師への法的責任追及に対する初動対応―刑事・民事を中心として―」と題して講演を行っていただきました。とても関心の高い医療訴訟の実際や具体的な対応方法等を身振り手振りを交えて分かりやすくお話しいただき、時には笑い声も巻き起こる程でした。質問も多数あり、活発な会となりました。

その後の懇親会も大勢の先生方にご出席いただき、少し狭い会場ではありましたが、却って会話がしやすかったと好評のうちに終了しました。

昨年11月の土曜日午後、毎年恒例の院内コンサートが開かれました。いつもはたくさんの患者さまが診察や会計を待っている慌しいロビーが、この日ばかりは即席のコンサート会場に変身です。第一部では大阪医科大学学生のグリークラブの合唱と、室内管弦楽部の演奏、第二部は本学出身の医師を中心にした混声合唱団によるストーリー仕立ての合唱と、花房病院長のヴァイオリン演奏です。もちろん全員アマチュアですが、見事なハーモニーとメロディーがロビーに響き渡り、いつもとは一味違う、ちょっと優雅なひと時を過ごすことができました。無表情で車椅子に座っていた患者さまが指で小さくリズムを取られていたり、思わず立ち上がってしまった方がいたり、それぞれに大いに楽しんでいただけたようです。入院患者さまや付き添いの方、院内のポスターで知ったという外来の患者さまなど、多数の方が大きな拍手を送っていらっしゃいました。

ところでコンサート終了後、十分楽しませてもらった私たちも待合室のソファを元に戻すぐらいはお手伝いをしようと動かし始めたのですが…。「ここは何列だった?」「この通路ってこんなに広かった?」等々、ほとんど毎日見ているはずのソファの配置が思い出せません。自分の観察力のなさ、記憶力のなさにあきれてしまいました。ところが見かねた清掃担当のスタッフの手にかかると、あっという間にいつもの風景に。プロの技に拍手!でした。

編集後記

干支頭の子年を終え、丑年を迎えました。皆様もご承知の通り、本来は丑が干支頭になる筈だったのですが、「丑の背中に乗っていた子が飛び降りて、お釈迦様に最初に挨拶をしたからだ」との言い伝えがあります。その為二番になりましたが、丑は十二支の中で最も粘り強く誠実な干支です。力強く頑張って充実した1年にしたいですね。2009年の最大の関心事と言えば、バラク・オバマ氏の第44代アメリカ合衆国大統領就任です。黒人初の大統領として後世まで語り継がれる事でしょう。オバマ氏は「チェンジ(変革)」という言葉を掲げて選挙戦に勝利しました。大阪医科大学附属病院も足元をしっかりと見据え、より良き姿に「チェンジ(変革)」していきたいと考えます。「みずき」も干支と同じ第12号になりました。皆様方のお役に立つことができているのかを見つめ直し、今後も努力を続けていきたいと思います。

(T.S)

大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室　〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
TEL.072-684-6338(医療連携室直通) FAX.072-684-6339

作成　2009年1月